

①事業の基礎情報

事業名	農業経営安定推進事業				担当部・グループ名	都市政策部 地域産業グループ				
施期間	平成26年度～平成29年度				担当GL氏名	板倉 宏幸				
新規・継続の別	継続事業				電話番号(内線)	52-1111(内線273)				
縦計計画 (基本計画) 体系	個別目標	(6)産業を活性化して、まちを元気にします				予算・事業上の 予 算 書 上 の 予 算 名	款	6款 農林水産業費		
	こんなことに取り組みます	事業者・関係機関との連携を強化し、現場のニーズをふまえ、産業の活性化、雇用の安定に向けた取組みを進めます。					項	1項 農業費		
							目	5目 農地保全費		
	みんなで目指すまちづくり 指標名	市内の法人数					事業名	1 地域農政総合推進事業		
現状値(H25)	898	実績値(H26)	922	実績値(H27)	894	実績値(H28)		目標値(H29)	930	(単位)社
						総合戦略	<input type="checkbox"/> 該当する <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			

②事業の概要

目的 (何をどうするために)	★農業者の高齢化・農業離れが進んでおり、耕作放棄地を解消する上で、農地の効率的かつ有効活用ができるように法人化した組織を活用しながら、新規農業者の育成・後継者確保を進める。	
	★地域農業の活性化を図るため、選定した高浜野菜を栽培し、各イベントの中での試食などを通し、消費者の反応を見ながら高浜野菜のブランド化を進めていく。	
対象(誰・何を対象に)	農業経営者及び生産農家	対象の数量
最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	☆組織的な農業活動が活発化され、耕作放棄地が解消されている。	
	☆高浜市の特産品を生産者・市民・行政がタッグを組んで検討し、消費につなげることで、安定的な農業経営が図られる。	
	☆特産野菜については、選定した高浜野菜を栽培し、高浜ブランド野菜として商品化を進め、地域農業の活性化に資する。	

③事業にかかる事業費概要

平成27年度(当初予算額)		決算額		主な内容
事業費総額(千円)		134	51	・消耗品費 51千円
財源内訳	一般財源	134	51	
	特定財源	国・県支出金	—	
		その他	—	
補助事業・単独事業の別		単独事業	単独事業	



▲ジャンボ落花生植栽会



▲ジャンボ落花生収穫祭

④平成 27 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

	何を・どのように・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
実施内容	◆落花生営農部会に愛知県農業改良普及課による植栽講習会を実施した。	H27.4	参加者 22 名
	◆農地の多面的機能発揮促進事業として地元子ども会・町内会と連携し高取みどり会が落花生植栽会を開催	H27.5	参加者 139 名
	◆市外イベントでのジャンボ落花生販売支援	H27.8~10	1 回
	◆ジャンボ落花生の収穫祭の支援	H27.10	参加者 145 名
	◆農村生活アドバイザーによるジャンボ落花生の加工品の試作	H28.3	3 品目
参画・協働・ 情報共有の工夫	★農家だけでなく、子ども会や町内会と連携し、植栽をすることで、ジャンボ落花生の周知だけでなく、収穫とともに地豆を塩茹でて食するという伝統的な調理方法を市民に広めていく。		
進捗状況	当初に掲げた計画通り、順調に進めることができた。		
実施内容に 対する成果 (事業の自己評価)	☆営農部会作付者に愛知県職員による専門的な作付指導を依頼することで日ごろの作付に関する疑問が解消された。 ☆高取地区の子どもにジャンボ落花生の植栽を手伝ってもらうことで農業の楽しさに触れてもらった。 ☆ジャンボ落花生の作付面積および収穫高は、ともに順調に増加している。 ☆収穫時にマスコミに取り上げられたことにより「高浜のジャンボ落花生」を多くの方に知っていただいた。		

⑤課題と今後の取組みの方向性（平成 27 年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
<u>(1) 特産野菜の耕作面積の拡大</u> ・ジャンボ落花生の高浜特産野菜としての栽培を定着させ、耕作面積の拡大が必要。	・ジャンボ落花生を高浜の特産野菜としてブランド化を進めるために、積極的に農家及び消費者にPRし、知名度を高める。
<u>(2) 収穫した特産野菜の加工</u> ・特産野菜の加工品が商品化できる。	・農村生活アドバイザーによる商品の試作や高浜の特産野菜としてのブランド化など、加工品の開発。
<u>(3) 加工した商品の販路確保</u> ・特産野菜の商品を安定的に供給できる製造拠点や販路を確保することが必要。	・加工品を安定的に供給し、販売ルートを確立するための製品化営業プランの作成。
<u>(4) 農家の活性化</u> ・農業者の高齢化、農業離れが進んでおり、担い手の確保を要する。	・将来的には法人化の流れに進むことも視野に入れ法人化の手法を模索していく。

⑥課題解決に向けた平成 28 年度の具体的なアクション（案）

	何を・どのように・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに (年月)
計画(案)	◆落花生営農部会に愛知県農業改良普及課による植栽講習会を実施する。	H28.4
	◆農地の多面的機能発揮促進事業として地元子ども会・町内会と連携し高取みどり会が落花生植栽会・収穫祭を開催する。	H29.3
	◆市外イベントでのジャンボ落花生の販売を支援する。	H29.3
	◆農村生活アドバイザーによるジャンボ落花生の加工品の試作を行う。	H29.3
	◆耕作者の意思を尊重しつつスムーズな担い手の組織化の手法を調査する。	H29.3
参画・協働・ 情報共有の工夫	☆市民へのジャンボ落花生の食するだけでなく、植栽への参加のPRをおこないながらも、市外イベントへの提供呼びかけにも積極的に対応することで特産品に多くの方に触れてもらうように心がける。	

特記事項